

議会だより

第42号

平成29年9月1日発行



議会日誌

平成29年 4月～6月

- | | | | |
|-------|---|-------|--------------------------|
| 4月18日 | 鶴殿老人クラブ「讀壽会」総会
民生委員児童委員協議会総会 | 5月26日 | 地方創生まちづくり特別委員会 |
| 21日 | 紀宝町老人クラブ連合会総会 | 27日 | シルバー人材センター大会 |
| 23日 | 紀宝町母子寡婦福祉会総会 | 29日 | 熊野川流域対策特別委員会ダム視察（十津川村） |
| 24日 | 紀宝町遺族会総会 | 30日 | 全員協議会 |
| 27日 | 県議長会理事会・意見交換会（津市） | 31日 | 全国議長会議長・副議長研修会（東京） |
| 5月 1日 | 第88回紀南地区メーカー（熊野市） | 6月 2日 | 近畿自動車道紀勢線建設促進期成同盟会総会 |
| 9日 | 紀宝町身体障害者福祉会総会（那智勝浦町） | 5日 | 港湾・井田海岸浸食対策特別委員会 |
| 10日 | 河口に橋を架ける会理事会・総会（新宮市） | 6日 | 議会運営委員会 |
| 11日 | 議会運営委員会
河口大橋議員連盟理事会・総会（新宮市） | 7日 | 紀宝町交通安全協議会 |
| 12日 | 国道169号線改良促進連絡協議会総会（熊野市）
熊野尾鷲道路建設促進期成同盟会総会（熊野市） | 8日 | 国道169号奥瀬道路Ⅲ期事業促進協議会（北山村） |
| 16日 | 紀宝地区交通安全協会交通安全大会 | 9日 | 環境保全対策特別委員会 |
| 22日 | 紀宝町商工会通常総会 | 13日 | 第2回定例会 第1日目 |
| | | 14日 | 第2回定例会 第2日目 |
| | | 22日 | 議員視察研修 宮城県女川町 23日まで |
| | | 27日 | 南郡交通安全対策協議会（御浜町） |

6月定例会

一般質問

(要約)

新宮紀宝道路の 早期完成



向井 健雅 議員

・新宮紀宝道路の早期完成について（百年に一度の大事業）

他

平成29年第2回紀宝町議会定例会は6月13日に開会しました。第1日目は、初めに、議長報告と各委員会委員長報告、一部事務組合議会議員報告、広域連合議会議員報告があり、続いて、町長から第1回定例会以降の町行政各般にわたる報告がありました。その後、一般質問が行われ、第2日目の14日にわたり6人の議員が質問に立ち、諸課題について当局の取り組みと考え方を質しました。引き続き、議案審議に入り、専決処分承認2件、条例の一部改正2件、町道路線の認定、平成29年度一般会計補正予算を原案どおり可決し閉会しました。

議員
新宮紀宝道路の早期完成について、百年に一度の大事業であるということ、県においては町長の要望もあつてプロジェクトチームを立ち上げてもらい、紀宝町においても推進チームを組んでいたいただきました。まずは今の物件調査状況と、後のスケジュールについてお伺いします。

産業基盤整備担当理事

近畿自動車道紀勢線推進プロジェクトチームでの今後の用地の進め方については、近畿道紀勢線推進プロジェクトチームが4月から設置されており、国土交通省が事業主体となって進めております。5月12日からは、新宮紀宝道路の対象となる地権者の皆さまに対し、2名一組の5班体制により、担当者の着任挨拶及び今後の補償の進め方などの説明に、伺っているところでございます。物件調査等の調査結果を取りまとめた資料が、国土交通省から5月末にプロジェクトチームに引き渡され、調査内容の確認作業を行っているところであり、今後のスケジュールにつきましては、調査結果に基づき、地権者の皆様の

土地調書及び物件調書を作成し、6月末頃から、順次、地権者の皆様へ調書内容の説明を開始すると伺っております。調書の内容の説明後には、補償対象となる土地及び家屋等の物件を確認していただいた地権者の皆様に、補償額を提示し、契約締結をお願いすることとなり、契約締結は早い方で9月以降となる見込みであるというふうにご伺っております。用地説明の申身について、報告でございますので、実際に補償額はまだ提示されていないということでご伺っております。

議員
契約云々になりますと9月以降、それ以上早くはならないというふうにご伺っております。よろしいですか。

産業基盤整備担当理事
プロジェクトチームの職員が回らせていただくなかで、決まったものについては早く契約をして、新たな場所での生活をきちんと進めたいというふうにご意見が多く出されております。町といたしましては補償説明の際に合わせて代替地の情報提供など、取り組んでまいりたいと考えております。

議員
町長のほうも、近畿自動車道紀勢線あるいは災害関係の要望について、ことある毎に新宮紀宝道路の要望もしていくと伺っております。用地交渉になりますと非常にデリケートな話になりますので、じっくり慎重に、国が主体になるでしようけれども、やっていた方がいい。代替地についても、随時確保していただいで、今後いろいろな面で地権者に対する配慮をしていただきたいと思います。

図書館、鵜殿保育所、幼稚園の建替え

議員

図書館、鵜殿保育所、幼稚園の建て替えについて、図書館に行く道路が狭い、場所移転も含めて、図書館の建替えあるいは場所移転の考え方について伺います。

教育課長

図書館の建替えの予定につきましては、現在具体的な計画はございませんが、今後、図書館と連携しました事業を実施しております福祉、教育、文化等々の施策の協働運営や連携を考慮しました、複合施設としての図書館につきましても調査研究し、検討していくことも必要だといふ

うに考えているところがございます。

議員

岳人という月刊誌に、当時こんな小さな村にも立派な図書館があるんだということを知ったということが載っていました。大変、利用度も高く図書館の中身も充実していますがアクセス問題として、道路の整備、あるいは整備する場所に移転をという気持ちですが、そのへん町長どうお考えでしょうか。

町長

今後、図書館の在り方についてはですね、もう少し幅広く検討していく必要があると考えているところでございます。

議員

いずれにしても今の保育所

や幼稚園も古いし、図書館にしても駐車場が狭いですね。築何年になるのかお答えください。

健康福祉担当理事

鵜殿保育所の築年数ですが、昭和55年に建築されております。昭和37年という状況でございます。駐車場の問題も踏まえて、今後検討・計画をしていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

教育課長

うどの幼稚園につきましては、昭和51年3月に竣工してまいまして、築後41年が経過しています。また昭和60年4月に増築し、築後32年を経過しております。幼稚園の建替えの予定につきましては、平成30年度に大規模改修工事を実施していく計画で考えております。

町長

幼稚園については、耐震的にはクリアできておりますので、リニューアルして、また安全性の高いところへということも、しっかりと検討をしながら今後進めていかなければならないかと思っております。



西村 喜久男 議員

- ・危険な空き家の対策について
- ・県道の安全対策について
- ・急傾斜地崩壊・土石流危険箇所対策について

危険な空き家対策

議員

管理されていない老朽化し危険な空き家について、把握されている件数は。

産業基盤整備担当理事

現在、危険な空き家件数につきましては、27件と把握しております。

議員

空き家対策特別措置法での取り組みはどのようになっていますか。

産業基盤整備担当理事

当町の取り組みにつきましては、特別措置法が平成27年2月に施行され、その法律に基づき、空き家の確認、状況把握に努めているところがございます。所有者又は管理者の特定が出来た方については、適正な維持管理や撤去に努めていただくようお願いしているところがございます。

議員

紀宝町で該当する空き家は何件ありますか。

産業基盤整備担当理事

地区住民から要望を受けている空き家は1件で、そこには通知を出している状況でございます。

議員

撤去してもらおう等の安全対策が出来るまでの対策として、例えば瓦飛散防止ネット張替え等の対策はどうですか。

産業基盤整備担当理事

基本、個人の所有物、財産となりますので、直接的な対応は難しいと考えております。今後、台風等の接近で、家屋の一部が飛散する危険性がある空き家につきましては、所有者の方に管理や撤去・修繕の指導通知をさせて



いただきたいと考えております。

議員

危険な空き家撤去費助成制度については、どの様になっていますか。

産業基盤整備担当理事

国と地方創生事業で平成27年に創設し、平成27年度では、11件513万5000円の交付、平成28年度からは町単独事業として、13件581万5800円の補助をさせていただきました。平成29年度も20件の解体補助費として1千万円の予算計上をしています。

県道の安全対策

議員

一旦停止線や止まれ表示、センターラインの消えかけ等、これらの不具合箇所の点検整備はどの様になっていますか。

産業基盤整備担当理事

不具合箇所の点検整備については三重県に確認しましたところ、道路パトロールや地域住民からの要望等により、センターラインや区画線の消えかけている箇所の状況把握し、交通量や地域の利用状況、緊急性など勘案し順に整備を行っていくとの事でございます。また、停止線や止まれ表示については公安委員会の管轄で紀宝警察に確認しましたところ、日々のパトロール等において状況確認し、交通量や緊急性等を勘案し県警本部へ紀宝警察としての修繕箇所を上申しているとの事です。

議員

特に通学路などでは不具合箇所の早期発見、迅速な整備が必要と考えますが、町としての対応はどの様になっていますか。

産業基盤整備担当理事

通学路での安全点検は、教育委員会、小学校、道路管理者、紀宝警察署など関係機関が危険箇所の点検を年1回しており、各学校単位で危険箇所を把握し、情報共有しております。特に緊急性のある部分は町の方でも、町道の区画

線の引き直しや、路肩部分の補修などの対策をしております。

議員

路肩の傷みや補修段差箇所の把握、また補修要望への取り組みはどうなっていますか。

産業基盤整備担当理事

大きな段差などの箇所については、発見次第速やかに補修を行っているとお聞きしています。しかし、舗装の打ち

継ぎ目等により、少しの段差でも車両が通行する際に振動や騒音が発生し沿線住民の皆様にご迷惑をお掛けしている箇所もあります。町としても、道路利用者や沿線住民の皆様が安全・安心に利用できるよう、今後も引き続き三重県や公安委員会に対し、適切な維持管理実施の要望を行ってまいります。現在、舗装修繕の小規模工事の予定として、町内では紀宝川瀬線、鮎田地区大通寺前付近の段差解消、それから鶴殿熊野線、大里地区相野谷給油所付近の段差解消、小船紀宝線北松杖地区の路面補修を今後行っていくと建設事務所から報告を受けております。

急傾斜崩壊・土石流危険箇所

議員

三重県実施の崩壊の恐れがある土地の地形や地質、降水の状況等の現地調査について、進捗状況はどの様になっていますか。

産業基盤整備担当理事

平成25年度から基礎調査が開始され、平成29年6月現在、紀宝町14地区のうち、浅里、阪松原、成川、神内、井田の5地区では区域指定が完了、鶴殿地区は基礎調査が完了し、区域指定の手続き中でございます。また、瀬原、北松杖、高岡、大里、井内の5地区は基礎調査が完了し、区域指定に向けた公表手続き中でございます。鮎田、平尾井、桐原の3地区は今後基礎調査を行い区域の指定を進め、平成31年度の完了を目標に進めております。

議員

調査結果を基に県・町・地域の方と相談し優先順位を決め、取り組んでいく事が必要と考えますが、今後の予定は

どの様になっていますか。

産業基盤整備担当理事

従来、台風等の豪雨により被災した箇所や地元地区・地域住民の皆様から土砂災害等の要望をいただいた際には、三重県に現地状況等各事業の採択要件に基づき、人命・人家等に被害が生じる危険性の高い箇所を優先的に法面工や擁壁などハード整備の要望をし、対策を行っている状況です。今回の調査全ての危険箇所の対策工事には膨大な時間と費用がかかります。この調査につきましては、土砂災害の恐れがある地区を明確にし、警戒避難体制の整備や危険箇所への新規住宅等の立地抑制等のソフト対策の充実が大きな目的です。ハード整備だけでは限界があり、土砂災害から身を守るため、1人ひとりが早めの判断・避難が重要だと今回の調査等を公表しております。





原 章二 議員

・国保都道府県単位化について
・部落差別解消推進法について
・小中学校における冷房
化の早期実施について

他

国保都道府県単位化

議員

国保の都道府県単位化（一本化）が2025年医療提供改定に伴い、来年度から実施されます。今日国保をめぐる状況は、市町村の国保財政の厳しさと、高すぎる保険料、この2つが悪循環となり国保加入者を苦しめています。その原因は1984年から国庫負担が5割から半減されたことにあり、三重県では、加入世帯約26万世帯中6万7千世

帯、23・4%が滞納となっておりまして東京、大阪をしのご大きな数字です。紀宝町での滞納状況はどうなっていますか。

住民サービス担当理事

本年4月末現在で国保加入者は2112世帯3448人で、収納状況につきましては平成27年度決算で収入未済額が2072万6900円となっております。また滞納状況における調定額は9711万3568円、収入済額1700万8425円、収納率17・51%。年度末の欠損不納額が319万6650円、収入未済額は7690万8493円、滞納世帯数は406世帯で19・2%となっております。滞納繰越額が年々徐々に増加しており、これが課題となっております。

議員

都道府県化になった場合の保険料算定については、応能性、応益性の割合、所得割、資産割、さらに均等割と平等割との割合が求められています。払える保険料にするためには、応能性を原則とし、また保険料の上限を設け、子どもに係る均等割保険料の軽減

措置を講じるべきではないですか。

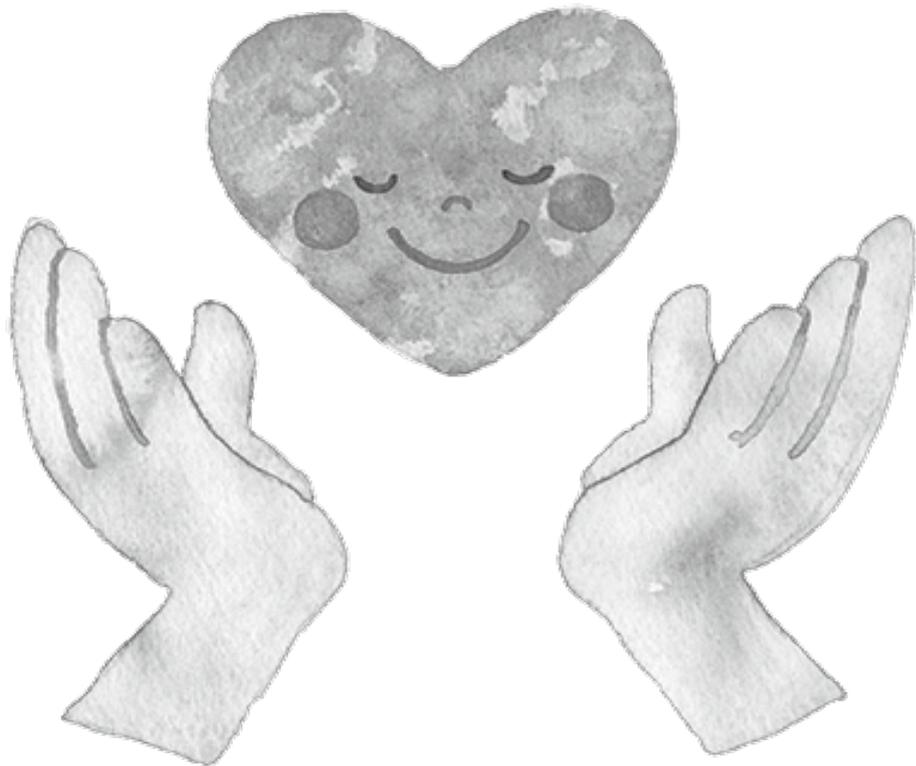
住民サービス担当理事

一元化にあたり三重県では課税割合や方式については各市町の判断で決定するとなっており、本町では国から示された標準割合と比較して応能割合の負担が多くなっています。また財源確保のため、所得割の税率を毎年0・2%程度の引き上げをお願いしております。子どもに係る均等割ですが、国の規定に沿って進めていきたいと思えます。

部落差別解消推進法

議員

この法律については2016年3月、二階幹事長の肝いりで、わずか1ヵ月半でまとめられ、昨年12月に参議院で可決成立し、16日に施行されました。この新法では部落差別解消のための理念法と言いつつ、逆に新たな障壁を作り出し、部落差別の固定化、永久化する危険性を持っています。この法案に対し参院法



務委員会で付帯決議が出されました。民間団体による教育、自治体への介入はさせてはならない、歴史の逆戻りをさせてはならない、これが付帯決議です。今後、町として対応をお聞きます。

教育長

全国的にみて、現在も差別の実態があり、SNS等で部落差別をめぐる状況にも変化が生じていることを踏まえ制定されたものと理解しています。今後、同法及び付帯決議を踏まえたくえで新たな差別を生むことの無いよう教育、啓発に取り組んでいきたいと考えております。

議員

法務省調査ではインターネットによる人権侵害受理件数は2006年から2015年に急増していますが、同和問題に関する申立て0件から7件の極めて少ない状況にあり、今日では混住が進み結婚などに関する差別が解消されつつあることを示しています。しかし子どもをめぐる貧困と格差の広がり新たな差別を生み出しつつあり、教育を受ける権利が奪われ、子どもたちの夢が奪われる、こう

した新たな貧困差別を解消することが今自治体に求められています。

学校における冷房化の早期実施

議員

地球温暖化により年々猛暑が続く、学校現場、保護者から冷房化を求める声が多く寄せられています。子どもたちの健康や勉強に集中できる環境づくりからも早期に実施してもらいたい。

教育課長

小中学校の冷房化については、保健室、図書室、ICT教室で設置しています。職員室については今年度で5校が整備、来年度中には7校全てについて進めてまいります。また教室全ての冷房化については、国庫補助の動向をみて検討していきたいと思えます。

個別所得補償の存続

議員

政府は今年度限りでこの制度を廃止し新たに収入保険制度を導入する考えだが、この制度は保険金が高く青色申告者に限定され、紀宝町内の米農家の実態に合わないもので、小規模農家が維持できなくなるので復活を要望してもらいたい。また対象件数と総額についてお伺いしたい。

産業建設課参事

この制度の29年分では239件、1万7750アールで支払額が1154万となる予定でございます。

町長

今日の農業経営は大変厳しいものがあり、現在の7500円についてはしっかりと要望していきたいと思っております。

新宮紀宝道路と地方創生

議員

この道路関係で地域周辺の

方々に将来についての不安や悩みについて、今後どのような対応を行っていくのか。

産業基盤整備担当理事

地域住民の皆様との意見交換会開催で出された意見については国交省に伝えておりまして、騒音振動等につきましても必要な対策と、事前に調査を行うと国交省から聞いております。

議員

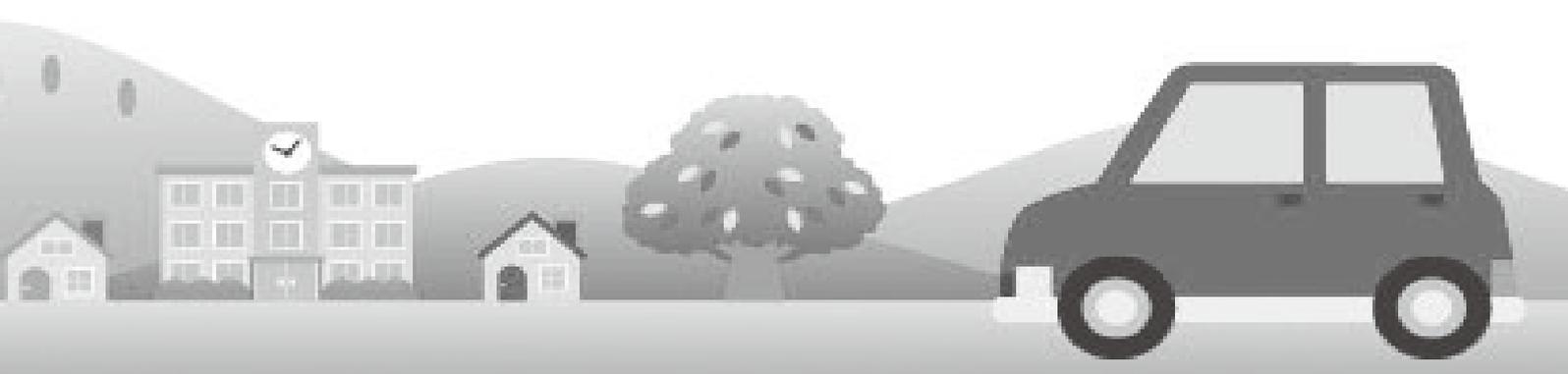
町長はこのルート設定時、周辺住民の方の対応についてはきちんと対応していくと答弁されたが今後どのように考えているのか。

町長

これまで地区の皆様とは意見交換の場を設けてきました。今後は国と連携し、ご意見についてはしっかりと耳を傾けていき、ご不満の解消に努めていきたいと思っております。

議員

今後、少子高齢化が進み町の基盤産業が脅かされ、さらに商店街や小規模店舗などが厳しい現実にさらされています。この道路問題を地方創生の一環として雇用が増え、安心して子育てができるまちづくり



くりりに町全体の事業としてとらえていく必要があるのではないかと。

町長

町づくりの基本は、この町で働いてみたい、そういう魅力ある町、そのためにはインフラ整備が重要であると考えております。道づくりがまちづくりにつながっていくように努力してまいります。



山本 精一 議員

・近畿自動車道紀勢線(新宮紀宝道路) 関連事業等について

新宮紀宝道路 関連事業等

議員

私は新宮紀宝道路を推進する議員として早期完成を求め

る署名活動に参加しましたが、家族が心筋梗塞で亡くされた方、通院されている方々から、道路整備による医療機関への救急搬送時間の短縮について、多くの意見をいただきました。昨年、紀宝町では、155人の方が亡くなり、その半数以上が日常生活の中で起こる緊急を要する病気等であり、約4日に一度の割合で救急搬送が必要と推定される状態です。皆様の意見を反映したい気持ちのもと一般質問等をし、議会だよりで配信してまいりました。紀宝町議会において平成27年12月17日、現ルートによる早期完成の決議がされました。私は、責任という名の勇気を与えてくれた、その原動力となった早期完成を求める9800人の署名を忘れません。私は新宮紀宝道路を推進する議員です。署名をいただいた皆様の思いは、必ず新宮紀宝道路の早期完成につながります。インターチェンジを活用した商業活性化について質問します。以前定例会で視察の感想やアイデアをお聞きしましたが、その後はいかがですか。

企画調整課長

3月に岐阜県郡上市の国土交通省が推薦する道の駅「古今伝授の里やまと」を中心に調査しました。温泉、農産物の加工・販売所やレストラン、売店からなり、観光客だけでなく、市民も食事や休憩に立ち寄る姿が多く見られました。交流人口3万人であった町が、現在は91万人となります。施設の状況や交流の場、集いの場、防災上の機能など、参加職員の視点から評価を行っていきまして、今後、当町の振興策に繋がられるよう、引き続き参考施設の調査を続けます。

議員

道の駅も良いと思います。私は商店街の活性化、ある意味、商店が紀宝町の顔になると思います。鶴殿から成川にかけて地域商店の活性化として、紀宝町で一番店の多い鶴殿駅前商店街はインターチェンジを効果的に活用できると思いますが、夜の商店街を歩くと街灯が無く暗すぎるので、おしゃれな街灯を設置し、夜中でも安心してカッパルが歩ける景観整備が必要だ

と思いますが、いかがでしょうか。

企画調整課長

空き店舗再生事業として、鶴殿駅周辺の空き店舗を活用し、小売業、一般飲食店及びサービス業など、地域に根ざした起業の育成支援を行う取り組みを実施しており、募集等を行っているところでございます。街路灯の設置につきましては今後検討してまいります。

議員

町で数店舗建設し、若者や商売に意欲のある方に貸し出す形が私の本意です。昔の鶴殿は、町外からたくさん人が来ていました。インターチェンジを使えば鶴殿へ来やすくなります。神社付近も道が広くなり、公園も整備されれば、公園でフラダンスや様々な方がイベントを行ない、皆さんに遊びに来てもらって、公園で弁当を食べたり、商店街で食事をしていただくことが、紀宝町に愛着を持っていただく始まりだと思います。町を知っていただき、紀宝町で住んでいただく。そんな形が出来れば一番です。今後は、商店街がメインになって

くると思います。道の駅も大事ですが、商店街が活性化されれば、みなと市も含めた楽しい商店街が出来ると思います。続いて、家賃補助制度の内容を教えてくださいませんか。

企画調整課長

鵜殿周辺の空き店舗を活用し、小売業、一般飲食店及びサービス業などの育成支援と商店街の活性化を目的に6月末日まで鵜殿駅周辺の空き店舗を募集し、自分の店を持って起業を志すかたを7月末日まで募集し、支援を行っていくものです。店舗の改修費用として、上限を30万円とし、2分の1を乗じた額を補助します。家賃補助は上限月3万円とし、月額家賃の3分の2を乗じた額を補助し、期間は一年間としております。

議員

成川の中村、上地地区には店がなく、高齢者は交通手段に乏しいので、成川分庁舎の解体後、授産事業のアプローチを建設し、高齢者の買い物利便性向上や地元産物の販売を行い高齢者とのふれあいゾーンを作ってはどうか。

町長

将来に向けての紀宝町の活力、元気の醸成は、これからの大きな課題であり、我々としてもしつかり取り組んでいかなければならないと思っております。今後、解体がスムーズに進み、土地を確保できれば有効的な活用に向けて、地域の皆様や議員の方々と相談しながら、進める必要があると思っております。

議員

現在B型事業のアプローチで障がいを抱え仕事を教わっている方は現在何名ですか。

健康福祉担当理事

就労継続支援B型事業につきましては、紀宝町社会福祉協議会でアプローチを運営しており、福祉の店アプローチと、鵜殿福祉センターでの清掃活動事業の2つに分かれます。アプローチ12名、鵜殿福祉センター11名の計23名です。

議員

B型事業は仕事を教わって、次のステップを目指す場所と理解していますが、ここからA型や民間へ就職した方はおられますか。

健康福祉担当理事

福祉の店アプローチでは、平成27年に一名の方が一般就労へ移行しております。

議員

町はインターチェンジを活用し商業活性化に力を入れてくれると思います。そして町が栄え、B型事業からの受け皿が紀宝町に出来て欲しいし、民間にも受け入れをどんどん行って欲しいと思います。



萩野 進也 議員

- ・地域おこし協力隊について
- ・物産振興と地域の活性化

地域おこし協力隊

議員

本年2月、地域おこし協力隊として1名の隊員が紀宝町へ赴任いたしました。地域おこし協力隊の目的は都市部から移り住み、地域協力活動とおして、地域の活性化に寄与するということです。紀宝町の活性化のために、その持っている力を発揮していただきたく、大いに期待しています。隊員については地域外からの感覚・視点で、新たな価値観を見いだしていただけることに期待を寄せています。そこで地域おこし協力隊が紀宝町において果たすべき役割についてお伺いいたします。

企画調整課長

地域おこし協力隊制度につきましては、都市部地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、生活の拠点を移した者を地方公共団体が地域おこし協力隊員として委嘱します。隊員は一定期間地域に居住して地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や農林水産業への従事、住民の生活支援などの地域協力活動を行いなから、その地域への定住・定着を図る取り組みでございます。

議員

近年、近隣地域において地域おこし協力隊が活動されていますが、その成功事例、そして成功しなかった事例について



いてお伺いいたします。

企画調整課長

平成29年4月1日現在で、御浜町が1人、熊野市が15人、尾鷲市が10人、紀北町が2人となっております。近隣市町の事例でございますが、漁業の盛んな町で鯖等を燻製したものをとと外部の方に知ってもらうために地域の方と一緒に株式会社を設立し、通信販売などの販路開拓を行い、現在では絶品の味わいと評判になっている事例がございます。また逆の事例としましては地域おこし協力隊として任用され、地域に入っていたかもしれませんが、1日で帰ってしまう事例もあつたようでございます。

議員

私は、失敗までとは言わなくても、残念な結果に終わった事例についてはより原因を探ることが大事であると思います。むしろそういった事例こそ失敗しないためのキーポイントがあると思います。いかがでしょうか。

企画調整課長

議員のおっしゃるとおりだと思います。

議員

2017年の2月には全国で863自治体で4千人以上

の隊員が活動しています。1自治体当たり平均すると約5人当たりになります。国も積極的に支援してくれているということですので。紀宝町において2人目、3人目を考えていますか。

企画調整課長

本年度におきましては、観光を主とした観光、商工の中で今現在行っているところでございます。今後も引き続き、そういった地域おこし協力隊の活用、任用ということについて取り組んでいきたいと考えております。

議員

一言に地域おこしといっても幅が広く、多種多様に渡ります。是非とも自ら希望して紀宝町へ来て活動してくれる地域おこし協力隊に外部の視点から紀宝町の活性化に寄与してほしいと願います。1名といわず、もっと多くの隊員を募集することを要望しておきます。次に物産振興と地域の活性化について質問いたします。物産振興について、これまで取り組んできたこと、そしてまたこれから取り組み

うとしていくことについてお伺いいたします。

企画調整課長

物産振興といたしましては柑橘類や郷土寿し、地域産品の加工品を中心に、東京や名古屋などで物産販売により町の特産品のPR活動を行ってまいりました。また、紀宝町商業活性化委員会では、平成24年度から地域の農林水産物や加工品などを販売します紀の宝みなど市を開催し、新たな消費と賑わいの場の創出に取り組んできました。今後の地方創生の取り組みの中で検討を行ってまいりたいと考えております。

議員

紀宝町には魅力のある一次産品、加工品としての二次産品もたくさんあると思います。しかしまだまだ認識されていない埋もれているものもあります。そこで既存の産品の再認識と、埋もれている資源の掘り起こし、そしてそれらの資源による新規特産品の開発、並びに既存産品への付加価値をつけることによるグレードアップ、そして販路開拓に取り組むこと。以上の特産品づくりによる地域の活性化



について、どのようにお考えでしょうか。

企画調整課長

まだまだ当地域には自分たちでは気が付かない、他地域の方から見て魅力的なものが埋もれてる可能性がありますので、地域おこし協力隊とか、外部の方の意見や視点を取り入れる中で、既存物産の再認識と資源の掘り起こしを行ってまいりたいと考えております。

議員

町内には頑張っている多くの人材がいます。組織づくりとか仕組みづくりをしつかりやっつけていけば6次産業として魅力ある取り組みになるはずですよ。6次産業、すなわち自分達で生産収穫したものを自分達で加工し、それを自分達で販売していく、実に楽しみのある、また魅力のあることだと思えます。このような仕組みの中に地域おこし協力隊を巻き込んで物産振興に取り組んでいくことはできませんか。

企画調整課長

今後、検討してまいりたいと考えております。

議員

地方創生の観点からも仕組みづくり、組織づくりに取り組んで行ったら新たな特産品開発に繋がり、活力ある物産振興の動きをつくっていくことになりそうです。このような仕組みの中では人材も育つていくと思えます。



平野 美津子 議員

- ・近畿自動車道紀勢線新宮紀宝道路について
- ・矢渕中学校の新築計画について
- ・防災対策について

他

近畿自動車道紀勢線 新宮紀宝道路

議員

新宮紀宝道路の進捗状況について詳しくご説明ください。

産業基盤担当理事

本年4月1日には三重県の組織として、新宮紀宝道路及び熊野道路の補償説明を行うため近畿道紀勢線推進プロジェクトチームが18名体制で設置され、紀宝町においても事業の円滑な推進を図るため、産業建設課内に「新宮紀宝道路推進室」を設置し、各関係機関との調整、住民の皆様からの相談窓口業務を行っております。今後補償説明をさせていただきます。9月ぐらいには最初の方との契約を目指したいと聞いております。

議員

新宮紀宝道路の立ち退き対象者に対して、どう対応していますか。

産業基盤整備担当理事

代替地を希望される方ににつきましては、昨年度から代替地造成工事に着手したところがございます。現在、代替地造成工事を行っている箇所も含め、町有地リストを作成しており、また地権者の皆様の選択肢を広げるため、申し出を

頂きました民有地につきましても代替地候補として情報提供を行えるよう、本年4月1日に紀宝町における公共事業用地の取得に伴う代替地登録制度実施要綱を制定しました。また3月定例会には紀宝町公共事業協力住宅新築等支援措置による固定資産税の特例措置に関する条例の承認を頂きました。

議員

このルートにつきましては、ボタンのかけ違いがあつて国交省から事業化前に説明がなく、地域のかたもどこを通るか知りませんでした。公務員は一部の奉仕者ではなく、全体の奉仕者ですので、最初の第一歩もやはり住民を大切にする立場で、住民に謙虚に接して理解してもらうことが大切ですが。

政策担当理事

議員ご指摘の、私どもは全体の奉仕者であるという定義につきましては、第一前提として業務にあたっております。

議員

新宮紀宝道路ルートに沿線居住者に対して、どの様な対応をしていますか。

産業基盤整備担当理事

平成28年6月27日、29日に開催されました住民説明会におきまして計画平面図が示され、住民対応につきましては意見交換会等を計10回、延307名の方にご参加をいただき、中で様々なご意見をいただいているところでございます。

議員

意見交換会をしていただきましたが、理事としまして皆様納得をいただいているとお思いですか。

産業基盤整備担当理事

100%皆様がご納得いただいているとは、町の方では考えておりません。その為、今後もこの事業にご理解いただくよう努力してまいります。

議員

住民はこの町の主人公です。今のご説明を聞いても上から目線で、河川国道事務所でも上から目線で対等の立場で聞こうとはされません。国会を見ていまして数々の力で国民を納得させるのではなく、数の力で法律を作ろうとしています。

政策担当理事



私どもは全体の奉仕者として業務に邁進しております。

決して上から目線でものを申しているわけではございません。地域住民さんとの懇談会、意見交換会につきまして、も真摯に耳を傾け、全て国に届け、出来ることはしていただくよう協議をしております。上から目線という言葉につきまして、産業基盤整備担当理事が答弁したことにつきましては真摯に答弁していると思っておりますので、よろしくお願いいたします。

議員

全ての方が納得したのではないというのが分かりますよね、公正にそこにお邪魔して仕事の内容をきちんとお話しすることについては、どのようにお考えですか。

政策担当理事

路線変更を求める会の方とも意見交換会を持たせていただいております。

議員

ルートにつきまして、この辺を通ることが平成24年には決まっていたのですか。

産業基盤整備担当理事

国土交通省がルート提案を示し、皆様のご意見をお伺い

したということです。

矢測中学校新築計画

議員

合併時に矢測中学校の新築計画を立てております。合併特例債は平成32年度までですので、早期に設計計画が必要であると考えます。学校を建てるということは検討と時間が必要と思います、目標として新築計画を立てたのですから、学校の立地場所の危険から子ども達の命を守るためにどの様に考えていますか。三重大学の川口先生からテニスコートへ避難できるというお話も最初は聞いておりましたが、県調査の地図を見せますと、とても危険な状態ですねと言われております。合併特例債に基づいて、矢測中学校のことを考えていただき、子ども達の命を守ることを最優先にさせていただきたい。生徒達のことを考えて一番良い方法はどのようなものだとお考えですか。

教育課長

町村合併当時の社会情勢として、文部科学省では全国的に学校施設の耐震化が進まず深刻な遅れを指摘しており、紀宝町教育委員会では矢測中学校校舎の耐震診断調査を平成18年度に実施し総合的に耐震補強工事を実施していくことが望ましいとの診断結果となり、安心、安全を図るための環境整備として学校施設改修工事等を順次進めており、今後も学校施設の環境整備に努めてまいりたいと考えております。避難路につきましては教職員が状況を確認しながら、より安全なルートを確認し避難する取り組みを行っています。川口先生からは、発災後の状況を見極めたうえで最適な避難をするようにと指導を受け、児童生徒に防災教育を推進しております。起り得る事象を冷静に受け止め適切な対応を進めていきたいと考えております。

※この他に「防災対策について」「ゼロ歳児保育の申し込みについて」「放課後児童クラブ（学童保育）の保護者負担金の引き下げについて」の質問がございます。

議員研修（宮城県女川町）



視察日程 平成29年 6月22日 ～ 6月23日

参加者 議員9名 教育長及び職員3名
研修場所 宮城県女川町

研修目的

近く必ず発生するといわれている、南海トラフに起因する大規模地震と大津波。その被害想定、減災対策、および復興に関する知見を得るため、平成23年3月11日 東北大地震で壊滅的な津波被害を受けた、宮城県女川町の復興状況を視察しました。なお、リンゴ「富士」発祥の地、青森県藤崎町も地方創生、産業振興対策として視察の予定でしたが、6月21日紀宝町における、12時間雨量400ミリ弱の豪雨による災害状況確認のため、出発を1日延ばしたことから、女川町のみでの視察となりました。

1 女川町概要

宮城県東端、牡鹿半島基部に位置し、石巻市に隣接する。ギンサケ、カキ、ホタテ養殖が盛ん。一方世界の代表的な漁場金華山沖に近く、平成22年の年間漁獲水揚額が82億円。食品製造品出荷額が335億円と水産が基幹産業の港町。そして新鮮な魚介類を活用し年間入込客数約70万人、観光消費額推計56億円と観光産業が盛んな風光明媚な町でもある。また牡鹿半島中部には、女川湾に面し東北電力女川原子力発電所が立地する。東北大震災では、最大津波高14.8m最大浸水深18.5m最大遡上高34.7mを記録。人口10,014人中 死者574名 死亡認定者253名と人口の8.23%が被災。住宅被害89%非住家被害78%と全被災自治体の中で、人口比、住宅比最大の極めて大きな損害を受けた。平成29年5月末の人口は6660名で震災前の3分の2まで減少。震災で亡くなられた人以外に、多くの住民が転出したことがうかがえる。

2 復興への取り組み

被災3県、市町の復興への取り組みでは、先頭を走っていると自負しているとの説明で、ゾーン分けをもとに道路整備、高台の掘削、低地のかさ上げ、産業再生の取り組みとして漁業関連施設、商店街の整備、復興公営住宅の建設など素早い対応と工事の進捗に、町の持つ力強さを感じました。

「復興まちづくり事業」として、UR都市機構とパートナーシップ協定を結び、その業務管理のもと、大規模工事を復興段階に合わせて一括発注。工事に関する調査、測量、設計、施工を一体として効率よく進め、工事費の立替、工期短縮そしてオープンブツク方式という情報公開により、地元企業の参入確保に成果を上げていくとの事でした。女川町が力強く復興を進めている基盤には、震災前から高台に学校、野球場、全天候型のグラウンド等広場、体育館などが整備されていたこと。このことで津波により児童生徒の人命損失がなく、震災直

後から避難所、救援拠点、ヘリポート、仮設テント、仮設住宅用地、復興公営住宅用地として活用できたこと。進行中の高台移転については、用地確保について土地所有者の協力が大きいとの説明でした。

3 まとめ

いただいた資料の中に、震災直後の児童の作品として次の詩がありました。

女川は流されたのではない

新しい女川に生まれ変わるんだ

人々は負けずに待ち続ける

新しい女川に住む喜びを感じるために

6年 小野寺 柚希さん

作者は、今は高校を卒業した年頃。このように力強いメッセージを出せる児童生徒が、俳句で、ぼうさい甲子園で、津波の到達地点を示す石碑建設で、折々に前向きで負けない気持ちのメッセージを発してきたとの事。若者が次の時代を背負って住み続けられる、産業と住まいが融合した、新しい町の整備が進められていると感じたところだ。

女川町まち・ひと・しごと創生総合戦略で、「人口減少下においてもにぎわいと活力を維持し続けられる町」を目指し取り組みを進めているとの事で、女川町の年間予算が、約600億円。国、県の事業と合わせ整然と復興事業が進められ、「コンパクトシティ」を目指し再建中ですが、震災前のビルが並ぶ街の写真に比べると、商店街の規模がかなりの縮小したのではと思われます。しかし回復しつつある水産業が業績を伸ばし、観光が復活すれば女川町の被災以前の繁栄は夢ではなく、5年後、10年後その進捗を見るため再訪したいと強く思いました。

紀宝町における津波対策。女川町では、最大34.7mまで到達し、避難して高台で津波を見ていた人も流されたと言われました。痛ましいことです。水害も、暴風も同じですが、今後未経験の大災害が起きる可能性が十分あります。浸水地域にいる場合は、想定外の災害に備えるため、まず避難して身の安全をはかり、その後復興に取り組み以外ない。避難路整備、避難訓練の重要性を再認識したところです。「災害は、必ず来る。」女川町木村議長の、あいさつの中の言葉です。心に刻まなければなりません。

(文責 莊司 健)



次回定例会の予定

9月12日（火）開会予定です。
傍聴は議会事務局で受付ています。

議会生中継について

公共施設5ヶ所のロビー等において、町議会本会議の様を生中継していますので、議会日程をご確認のうえ、ぜひご覧ください。

- ① 役場本庁舎
- ② 生涯学習センターまなびの郷
- ③ 福祉センター（鶴殿）
- ④ 保健センター（神内）
- ⑤ 相野谷診療所

※放映時間については、当該施設開館時間内となりますので、ご了承ください。

インターネット録画中継について

町議会では開かれた議会を目指して、平成23年6月定例会分からインターネットによる録画中継を実施しております。映像をご覧頂くには、

◎紀宝町ホームページ↓「町議会情報」↓
「インターネット議会中継」をクリック

可決された議案（6月）

● 専決処分の承認について

- ・ 紀宝町税条例の一部改正
- ・ 紀宝町国民健康保険税条例の一部改正

● 紀宝町消防団員等公務災害補償条例の一部改正について

● 紀宝町立幼稚園条例の一部改正について

● 紀宝町道路線の認定について

● 平成29年度一般会計補正予算（第1号）

編集後記

梅雨入りから、安定した天候で安堵をしていたところですが、6月21日には低気圧に伴う豪雨があり、低地部では冠水が発生しました。また7月4日には台風3号が紀伊半島を通過、台風による被害はなかったものの前線の停滞により九州北部では豪雨による甚大な被害が発生しております。この豪雨によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様にお見舞い申し上げます。また行方不明の方々も早期発見をお祈りいたします。連日の被災地報道を見ると、平成23年の当地域での大水害を思い浮かべます。現在、当町では復旧・復興ともに継続工事を除き、ほぼ完了し、今後においてもあの時の災害を忘れることなく「災害に強い町づくり」に向けて町民の皆様とともに備えていく事の必要性をあらためて感じたところであります。

（文責 大前）

「議会だより」（42号）

編集委員

平野美津子

向井 健雅

大前 森重



自然保護のため、この議会だよりは再生紙および石油系成分の少ない植物油性インキを使用しています。